

R5 年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会実施報告書③

共催：長崎市医師会・長崎市

- 目的** ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進
②顔の見える関係づくり・多職種連携強化

対象者 医療・介護等専門職のうち多職種チーム化に登録いただいている方
(医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・栄養士・地域包括支援センター・在宅支援リハビリセンター・包括ケアまちなかラウンジ・市職員)

開催日時等

日時	会場	対象地域包括支援センターエリア
⑤ R5 年 5 月 18 日(木)19:00～20:30	市役所 2 階 多目的スペース	桜馬場/片淵・長崎

内容

1. 開会挨拶

2. 講話

- (1)元気なうちから手帳について 長崎市福祉部次長 渋谷 浩司
(2)長崎市医師会版 わたしの思いについて 長崎市医師会 理事 土屋 知洋
(3)ACP について～救急医の立場から 長崎市医師会 理事 早川 航一
(4)救急現場における DNAR 対応 長崎市消防局警防 2 課 寺平亮

3. 意見交換会

テーマ 「ACP について自身の立場でどのようなことに取組んでいるのか」
～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～

(人)

参加者数

	R5 年 5 月 18 日 市役所 2 階 多目的スペース
医師	11
歯科医師	5
薬剤師	18
訪問看護師	1
管理栄養士	2
主任ケアマネジャー	6
在宅支援リハビリセンター	2
包括ケアまちなかラウンジ	3
地域包括支援センター	6
その他	2
医師会事務局	2
行政	11
計	69

※その他…作業療法士(訪問看護事業所)1名、歯科衛生士1名

意見交換でのご意見(一部抜粋)

テーマ 「ACPについて自身の立場でどのようなことに取組んでいるのか」

～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～

ACPについて

- ・入所者の家族へは何回も説明し、動画を撮って半年前の状況を話し医師にも説明してもらっている(栄養士)
- ・普段来ない親族が来て救急搬送したケースがあった(ケアマネ)→このようなことがあるのでACPが大切(医師)
- ・途中で関わることになるとういうことを決めているのか分からないので最初から決めておくことが大切(薬剤師)
- ・ACPは入院中のカンファレンスなどでしてもらおうと助かる。具体的に「実際どういうふうに生きたいか、生活したいか」という聞き方にする。「最期どうしたいですか」だと不安を煽ってしまう(医師)
- ・ACPに直接かかわることは少ないが、今後、積極的に関わっていきたい。最期の人の歯の視点(歯茎や口の渇きなど)も取り入れてほしい(歯科医師)
- ・信頼関係ができてからでないとACPについて話すことは難しく感じる(ケアマネ)
- ・ACPについて考えることが増えた。病院でも仕組み作りをしている段階。(作業療法士)
- ・誰にどのような専門職に心を開いてもらえるか分からないので、いろいろな職種の方にACPを！(医師)
- ・地区のサロンや地域活動のなかでACPを進めている(包括)
- ・ACPについて地域の方々にもっと広く知ってほしい。まだ知られていないと思う(医師)
- ・薬が飲めない方→処方薬を粉砕→粉砕してまで飲んでもらわないといけないのか。今後、必要最低限の薬でよいのか、医師と話して決めていくべきなのか、ACPについてここが薬剤師の役割なのではないかと思う(薬剤師)
- ・対象者の健康な時にACPが始められるような仕組みを作らなければいけない(歯科医師)

元気なうちから手帳について

- ・手帳を渡すタイミングや活用の仕方がわからない(多職種)
- ・手帳を薬局にも置きたいと思った。月1回、薬局に来た時にそのタイミングで定期的に考える
とよいのではないか(薬剤師)
- ・リハビリにいられた時、手帳に好きなことを書いてもらっていた。「好きなことから書いてみたら」と気軽な感じで書いてもらったら包括にふらっと手帳を取りに行く方もいる(理学療法士)
- ・出前講座を増やして、広く周知することが大事(薬剤師)
- ・テレビでの広報があると、実際に手帳を取りに来られるかたが多い(包括)
- ・手帳の配布だけでなく、一緒に記入をする時間も設けている。(ケアマネ)



情報共有について

- ・関わる際はチームで動いたほうがよいのではないか。担当者会議などで集まったときに進めてはどうか(ケアマネ)
- ・地域ケア会議などでそれぞれの職種の方々にACPの話を広げてほしい(医師)
- ・チームで関わったときに、元気な時の発言や家族の思いなど共有できたら良いと思う(理学療法士)

<意見交換の様子>

